

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
ルネサンス デザイン・美容 専門学校	平成7年3月20日	中野 勸次郎	〒 430-0943 (住所) 静岡県浜松市中央区北田町130-12 (電話) 053-452-2121																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人爽青会	平成20年3月21日	理事長 中野 勸次郎	〒 430-0943 (住所) 静岡県浜松市中央区北田町130-12 (電話) 053-452-2121																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	専門課程(文化・教養関係)	イラストレーション科	平成30(2018)年度	-	令和 1(2019)年度																													
学科の目的	イラスト制作会社や現役イラストレーター・漫画家との合同授業により、多彩な表現力とオリジナリティー溢れる発想力を身に付け、想いをカタチに出来るイラストレーター・漫画家の育成																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中途退学者等)	取得可能資格:カラーデザイン検定3級/Photoshop®クリエイター能力認定試験/Illustrator®クリエイター能力認定試験/ビジネス著作権検定 中途退学者:3人(中途退率2.4%)																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,220 単位時間 単位	448 単位時間 単位	0 単位時間 単位	2,772 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
150人	107人	0人	0%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>41</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>41</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>41</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>24</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>59</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) アニメ制作会社、印刷会社、広告・看板製作会社 等</p>						■卒業生数(C)	41	人	■就職希望者数(D)	41	人	■就職者数(E)	41	人	■地元就職者数(F)	24	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	59	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	41	人																																
■就職希望者数(D)	41	人																																
■就職者数(E)	41	人																																
■地元就職者数(F)	24	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	59	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.rad.ac.jp/illustration/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,220 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>264 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,164 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>88 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	3,220 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	264 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	2,164 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	88 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	3,220 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	264 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	2,164 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	88 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																	
うち必修授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>4人</td> </tr> </table>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人	計	6人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人																																	
計	6人																																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	4人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・挨拶、掃除は社会人の初歩的かつ重要技能と位置付け、企業との連携授業においても徹底する。
- ・「日本人ならではの徳性・新旧の美意識に学び、日本流・新デザインを世界に問う」ことの出来る人材を育成する。
- ・「就職後にこそ伸びしろのある」人材育成のために、現場主義に基づいた表現力と最新の技術教育を行う。
- ・教育課程編成委員会、企業訪問を実施し、業界の動向や必要とされる技術の実態を常に刷新する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会はルネサンス デザイン・美容専門学校 教育課程の編成に対し、年2回開催される教育課程編成委員会にて意見を発し、また教育課程の運営を評価する権限を有する。教育課程編成委員会での討議内容は議事録として残し、学科長を中心に次年度学科運営計画を策定。学校長の承認を経て、講師会にて常勤・非常勤講師に共有する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
中野 勤次郎	ルネサンス デザイン・美容専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
中野 良太	学校法人爽青会 副理事長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
藤原 研一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 副校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
大城 陽功	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
杉浦 英樹	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
岩田 俊太郎	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
相原 和晃	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
寺田 朱里	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
戸塚 千尋	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
橋本 美乃里	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
前田 健一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
望月 智	株式会社ジェットスタジオ 取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
影山 公一	株式会社ピットカンパニー 代表取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
合志 政博	株式会社クロスデバイス 制作部 統括 アートディレクター	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
南田 明美	公立大学法人 静岡文化芸術大学 文化政策学部 芸術文化学科 講師	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(12月、2月&3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年12月11日 14:00～15:30/令和5年12月20日 15:00～17:00

第2回 令和6年 2月29日 15:30～17:30/令和6年 3月 1日 10:00～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2024年度に向けて、需要を見越し教育の精度を高めたい3DCG分野、映像分野を中心にご意見を伺った。前者では、本校は2Dイラストと3DCGを両方学べることを踏まえ、採用時に2Dイラストの力がどのように着目されるのかを確認。3DCGにも通じる観察や空間把握、配置といった点に重きを置いた指導の必要性をご指摘頂けた。後者では、映像制作の現場で使用されるソフトウェア、編集と撮影ではどちらの技術がより求められるかを確認。ひとつの技術に特化するより、撮影・編集・撮影前の企画設計などマルチスキルを持つ人材によりニーズがあることをご指摘頂けた。専攻ごと各科目で授業設計に反映させていく。加えて、両分野で2年次、3年次の到達点について、より具体的な課題設定のご提案も頂いた。これについては2024年度2年次修了制作課題に取り入れる。目的を意識させ、より実践的かつ就職を見据えた課題を実行していく。また、同世代の大学生の特徴、大学教育から、専門学校教育にも活用できるものはないかご意見を伺った。地域貢献・ジェンダー論・SDGsなど自分たちのイシューとして捉えている傾向があることが確認出来た。デザイン専攻を中心に、課題解決型の産学連携・地域貢献活動を重視していくことを計画に反映させていく。加えて、数年後をにらみ、使用ソフトウェアの動向・新技術・生成AIについて各業界の現状を伺った。これらは引き続き注視していくこととなった。従来の制作力に加え、より思考力と実践力(考えて作れる力)を育み、現場での対応力が発揮できる人材を輩出できる学科としていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実際にイラスト・デザイン・マンガといったクリエイティブの実務に関連した企業や社会人教育に関連する企業を選定し連携する。学生のクリエイティブスキルや社会人能力を実践的に向上させるとともに、各業界で活かす手段・方法を具体的に学ぶことが出来る授業を依頼する。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 クリエイター能力認定試験対策では、検定試験の対策授業を行う中で、クリエイティブ業界や関連業界で必須となるPhotoshopとIllustratorのオペレーション力を養う。指導と評価は検定指導実績がある講師が行い、(1)オペレーション力(2)納期の観点で評価される。[マンガ専攻]ネーム研究実習Ⅰでは、読者目線に立ち、設定や物語の骨子を作れるよう、プロの原作者から指導を受け、構成力を向上させる。評価は実務者目線から行き、(1)企画力(2)ビジュアルコミュニケーション(3)商品力(4)納期の観点で評価される。ビジネストレーニングⅡでは、すべての業界で必要となる社会人力、コミュニケーション力、自己アピール力を、対話を中心にした指導で培っていく。評価は、人材派遣・採用者目線で行われ(1)社会教養(2)情報収集・活用(3)キャリア研究(4)文章力の観点で評価される。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
クリエイター能力認定試験対策	Photoshop、Illustratorの認定試験(スタンダード)合格をめざす中で、Photoshop、Illustratorのオペレーション力を確かなものにします。	HYRSパソコン教室 学習塾
[マンガ専攻]ネーム研究実習Ⅰ	マンガ制作の重要な要素の一つである「シナリオ」について学ぶ授業です。オリジナルのキャラクター・場面を確実に設定し、物語の骨子を作れるように学びます。また、構成の基礎を習得することで、読者に伝わる読切作品制作につなげます。	合同会社スタジオけるける
ビジネストレーニングⅡ	就職活動の基となる業界・企業研究や自己分析を通して、希望する企業に対してより適切な自己アピールができる力を学びます。	株式会社ヒューマンアロー
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 就業規則 第26条(教育)に定める通り、職員は常に教養と品性を高め、学校が期待する社員像を目指して研鑽に努めなければならない。そのために学校は職員に対して一般的または職務上必要な一般的な知識および情報に関する教育、専門的な知識、技能に対する教育、管理、監督者教育などの教育を行う。研修等については教務責任者が職員の職能や今後の中・長期的な学校運営を考慮して計画し、実施する。また、当初の計画にない場合でも、必要に応じて実施する。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ゲーム業界説明会&ゲーム企業視察	連携企業等: 都内ゲーム企業
期間:	2023年4月7日	対象: イラストレーション科担当の常勤教職員
内容	イラストレーション科の多くの学生が目指す先となるゲーム企業を学生の引率研修と合わせて視察した。学生には、将来の目標をより明確にもたせ、業界で働く姿をイメージしやすく出来るよう事前と事後に指導を行った。実際の現場を見、企業側の話を聞くことで、業界の現状を知ることが出来た。また、専門分野の技術指導だけでなく、キャリア指導に必要なことを見出し、数年後を見据えた学生指導につなげられるように、ゲーム業界の今と将来について学ぶ機会と出来た。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	マナーアップ研修	連携企業等: 株式会社浜松ビジネススクール
期間:	2024年3月4日	対象: 常勤職員
内容	相手に信頼感を与える立ち居振る舞いや、良い印象を与える身だしなみ、来客対応のマナーや所作、言葉遣いについて学んだ。身だしなみでは色や形に注目した考えを学び、マナーや所作では実演の様子を動画に撮ることで客観的に自らを省みることが出来た。研修を通じて、自らのマナーをアップさせることで、学生の社会人指導&就職指導の質を上げるにつなげることが出来た。	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ゲーム企業視察&ゲーム企業・業界説明会	連携企業等: 複数の都内ゲーム企業
期間:	2024年4月～8月にかけて	対象: イラストレーション科担当の常勤教職員
内容	イラストレーション科の多くの学生が目指す先となるゲーム企業を学生の引率研修と合わせて視察する。また、学生向けにゲーム企業による企業・業界説明会を実施する。学生と共に、実際の現場を見、企業側の話を聞くことに加え、情報交換などを行うことで、業界の現状を知るとともに、技術指導だけでなく、キャリア指導に必要なことを見出し、数年後を見据えた学生指導につなげられる機会とする。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	新任教員研修	連携企業等: 公益社団法人静岡県職業教育振興会
期間:	2024年8月	対象: 常勤職員
内容	専修学校のしくみや教育方法論を実践的に学ぶことで、専門学校職員としての在り方を見つめ直し、指導力向上につなげる機会とする。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

就職先企業関係者、職能団体関係者等により構成される学校関係者評価委員会により、年度末に実施する「自己点検・評価」を外部の目線で評価し、あわせて授業視察、学内施設見学を実施することにより、ルネサンス デザイン・美容専門学校および専門学校ルネサンス・ペット・アカデミーにおける教育の質保証・向上を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流(必要に応じて)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果を学校長に報告の上、教務統括部長が中心となりプロジェクトチームを組んで改善を図り、次回学校関係者評価委員会にて報告している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
上野弘道	公益社団法人日本動物病院協会 専務理事/日本動物医療センター院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界・団体委員
平井伸幸	株式会社レボル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等の委員
坂元祥彦	一般財団法人 動物看護師統一認定機構 業務執行理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界・団体委員
望月智	株式会社ジェットスタジオ 取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.rad.ac.jp/souseikai/img/report_rad2023.pdf

公表時期: 令和6年6月27日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

在校生の出身高等学校に対しては、年数回の高校訪問において在籍状況、就職活動進捗などをリアルタイムで報告・情報提供/収集し、学生指導の質的向上を図る。公式Webサイトは主に入学希望者とその保護者、就職企業等に対する情報提供、Facebookページは卒業生に向けた情報発信と、役割を分ける。学校運営状況については毎年財務状況に関する書類を公開・更新する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	理事長挨拶 法人概要 沿革(公式WEBサイト)
(2) 各学科等の教育	学科紹介(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(3) 教職員	講師・設備(公式WEBサイト)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職実績(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(5) 様々な教育活動・教育環境	授業ブログ(公式WEBサイト)
(6) 学生の生活支援	学科紹介・保護者の皆様へ(公式WEBサイト)
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(8) 学校の財務	財務計算に関する書類(公式WEBサイト)
(9) 学校評価	自己点検・評価および学校関係者評価報告書(公式WEBサイト)
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(説明会での説明)

URL: <https://www.rad.ac.jp/document/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(専門課程(文化・教養関係) イラストレーション科)																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○			清掃と挨拶 I	校訓である「明るいあいさつ、人より早く」「使う前よりきれいな、トイレ清掃」や、日頃の清掃・整理整頓を实践し、社会で真に役立てる人材・自ら問題解決が出来る人材となることを目指します。	1	28			○	○		○				
	○			キャリア研究・LHR I	キャリア研究では、5年後10年後の目標に向けた職業計画や、自分自身の過去を振り返っての自己分析を行います。また学んだことを活かす職種や業界の研究を行い、就職活動に活かします。LHRでは学校行事やクラス内イベントの準備、スケジュールや連絡事項の確認を行います。	1	56			○			○				
	○			ルネサンス・מוד	学生自身の「ジブン価値」を発見・向上(UP)させ、自立・自活した「卒業後に真に役立つ人材、自ら問題解決が出来る人材」へと成長するために、「社会人力」と「人格を高める」カリキュラム。「本校の使命」に明示された心得や良き習慣を、双方向体験学習・映像・学外見学などの多様な教育手法を用いて学びます。	1	22			○			○				
	○			ビジネストレーニング I	ビジネスマナーやビジネス文書、メール連絡など社会人として必要となる常識を身に付け、インターンシップを始めとした就職活動の準備を行います。	1	34			○			○				
	○			色彩論	色相・明度・彩度・トーン・配色といった色彩に関する基礎理論を学び、カラーデザイン検定3級合格を目指します。世界標準のカラーシステム「PANTONE」を基準に、実践的に学びます。ここで得た知識は、あらゆるイラスト・デザイン制作に応用していきます。	1	22			○			○				
	○			美術・デザイン史	絵画・彫刻・建築・服飾などの各分野における近現代の美術・デザインの作品や思想を学ぶことで、普遍的な価値観や現代デザインの方向性、審美眼を磨きます。	1	24			○			○				
	○			デッサン I	観察力を養い、物の陰影を面で捉え、立体的に描画するための技術や、正確に形や構図をとる技術を学びます。静物を中心に徹底的にデッサンを行い、イラストレーション制作における基礎を身に付けます。	1	88						○	○			
	○			デジタルイラスト I	主にCLIP STUDIO PAINT、Photoshopの基本的な使い方を習得する授業です。各ソフトを用い、デジタルイラストを描く上で、最低限必要な表現技法、技術、知識を学びます。	1	88						○	○		○	
	○			キャラクターデッサン I	クロッキーをベースとして、全体を見る力を養い、人体やキャラクターをバランスよく描くための基本的なルールや技術を学び、イラストに適した人体描画の基礎を身につけます。	1	88						○	○		○	
	○			イラストレーションゼミ I	イラスト・アニメーション・デザイン・映像作品などで、今、活躍中のクリエイターをゲスト講師として招待し、プロになるためのセルフブランディング手法や、独自の表現技法を、実例や具体的なエピソードを通して実践的に学びます。	1	88						○	○		○	
	○			修了制作 I	各自コースを選択し、各コースで設定されたテーマに基づき総合的な制作を行い、1年間の集大成となる作品制作を行います。これにより2年次への進級認定を受けます。	1	144						○	○		○	
	○			パース・背景作画基礎	アイレベルや消失点といったパースの基本原則に始まり、レイアウトのルールやパターンを学びます。人物が入った背景を違和感なく描くための基礎知識を習得し、背景作画のためのベースをつくります。	1	44						○	○		○	
	○			DTP I	デザイン(特にレイアウト)の基本ルールを学びます。そして、あらゆるデザイン業務で必要となるIllustrator、Photoshopの使い方を学び、DTPの技術を初歩から習得します。また、名刺やチラシ等の制作を通して印刷に関する基礎知識も身に付けます。	1	88						○	○		○	
	○			マンガ表現基礎 I	CLIP STUDIO PAINTでのデジタルマンガ作画の基礎技術を習得する授業です。機能を学ぶ過程で、ベタやトーンの効果的な使い方やモノクロのバランスについても学び、マンガだけでなくモノクロイラストの作画・仕上げの技術習得へとつなげていきます。	1	44						○	○		○	
	○			アナログイラスト	アナログ画材(コピックや水彩絵の具、色鉛筆など)と紙の特性を知り、表現技術を学ぶ中でメッセージ力を高めるための適切な画材選択、イラスト制作を実現します。	1	22						○	○		○	
	○			3D基礎	3DCG制作ソフト「Maya」の基本オペレーションの習得を通じて、3DCG制作の基礎となる考え方を学び、幅広い業界で使われている3DCGの技術を初歩から習得します。	1	68						○	○		○	
	○			[イラスト/マンガ専攻]DTP(Ps)	イラストやマンガ制作に活かせる加工やゲームなどの画面制作で用いるPhotoshopのスキルを中心に画像加工やパーツ制作の技術を学習します。	1	44						○	○		○	
	○			[デザイン専攻]DTP(Ai)	レイアウトや、色、文字・文章、画像の扱いなど、デザイン全般のルールを制作を通じて学びます。Illustratorのスキルを中心に基礎デザイン力を更に積み上げます。	1	44						○	○		○	
	○			[イラスト/デザイン専攻]広告イラスト基礎	誌面やパッケージに掲載されるカットやキャラクターを意識したイラスト制作を行います。実際の仕事では、条件や注文に応じて、幅広い絵柄や画風で描くことが必要であることを理解し、そのために必要な技術や考え方について学びます。	1	44						○	○		○	
	○			[マンガ専攻]マンガ表現基礎 II	マンガ制作における基礎技術を総合的に学べる授業です。ストーリー構成・キャラクターメイキング・作画など、同人誌制作やSNS発信からプロを目指すために必要な技術を目的に応じて幅広く学べます。	1	44							○	○		○

67	○	[イラスト専攻] ドローイング 実習	個々の課題克服と基本の振り返りを目的にドローイングを行い、人体や静物描画の仕上げを図ります。習慣化と描画速度アップを実現することで、生産力向上にもつなげます。	3	88					○	○			○
68	○	[デザイン専攻] レイアウト II	文字の扱いを中心に、より高度なレイアウトのルールを制作を通じて学び、情報量に応じて適切に紙面デザインができる対応力と応用力を身につけることを目指します。	3	88					○	○			○
69	○	[マンガ専攻] マンガ表現応 用II	より広い読者に受け入れられるマンガ表現を実現するべく、人物の表情や心理描写、情景描写など、人物と背景作画の表現技術や演出方法を学びます。プロレベルを見据え、作画の応用力を高め、マンガの質をさらに高めることを目指します。	3	88					○	○			○
合計				69	科目	3220		単位(単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 卒業制作合格 成績評価がすべてC以上 年間要出席日数の80%以上出席		1学年の学期区分	2期
履修方法: 必修/選択必修科目を対面またはオンラインにて受講		1学期の授業期間	1期:4/1-8/31 2期:9/1-3/31

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
ルネサンス デザイン・美容専門学校	平成7年3月20日	中野 勤次郎	〒 430-0943 (住所) 静岡県浜松市中央区北田町130-12 (電話) 053-455-2121																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人爽青会	平成20年3月21日	理事長 中野 勤次郎	〒 432-0943 (住所) 静岡県浜松市中央区北田町130-12 (電話) 053-455-2121																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	専門課程(文化・教養関係)	ブライダル・トータル ビューティー科	平成29(2017)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	お客様の美を引出し、最高のステージに送り出すための美容技術や接客マナー、ブライダル知識をトータルで身に付けたブライダルプランナー・ビューティアドバイザー・エステティシャン・ファッションアドバイザーを育成する。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能資格: シュウウエムラメイクアップ技術検定/ジェルネイル検定初級/ブライダルコーディネート技能検定 / セルフメイク検定/メイクアップ技術検定1級 中途退学者: 0人(中退率0%)																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,794 単位時間	474 単位時間	0 単位時間	1,320 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																										
			単位	単位	単位	単位	単位	単位																										
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
80人	62人	0人	0%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>17</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>17</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>17</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>59</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 結婚式場・エステサロン・美容部員等</p>						■卒業者数(C)	17	人	■就職希望者数(D)	17	人	■就職者数(E)	17	人	■地元就職者数(F)	10	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	59	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	17	人																																
■就職希望者数(D)	17	人																																
■就職者数(E)	17	人																																
■地元就職者数(F)	10	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	59	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.rad.ac.jp/beauty/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,794 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>362 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,126 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>155 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>30 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,794 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	362 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,126 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	155 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	30 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,794 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	362 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,126 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	155 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	30 単位時間																																	
総授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																	
うち必修授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	3人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	3人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・挨拶と掃除は社会人の初歩的かつ重要技能と位置付け、企業との連携授業においても徹底する。
- ・教育課程編成委員会によって業界ニーズや産業振興の方向性を把握・分析し、必要な知識・スキルを身に付けカリキュラムを編成する。
- ・企業訪問を実施し、業界の動向や必要とされる技術の実態を常に刷新する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会はルネサンス デザイン・美容専門学校 教育課程の編成に対し、年2回開催される教育課程編成委員会にて意見を発し、また教育課程の運営を評価する権限を有する。教育課程編成委員会での討議内容は議事録として残し、学科長を中心に次年度学科運営計画を策定。学校長の承認を経て、講師会にて常勤・非常勤講師に共有する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
中野 勤次郎	ルネサンス デザイン・美容専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
中野 良太	学校法人爽青会 副理事長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
藤原 研一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 副校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
竹田 侑里	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
安藤 創一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
阿部 恵美	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
落合 拓弥	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
前田 健一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
米山 ちほ	ルネサンス デザイン・美容専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
大門 様	株式会社ザ・フォウルビ 人事部部長代理	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
大石 智恵	株式会社緑美 代表	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
野田 兼義	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 専務理事	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
松井美咲希	株式会社コーセー 卒業生	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月27日 10:00～15:00

第2回 令和6年2月27日 10:00～15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ブライダルの全体的な学習内容に関しては、大きな課題は見当たらないという意見であった。近年では、機械の進歩が進みとても便利な物が出ている(iPadやPC、AI等)。その中で、古き考えは捨て、時代のニーズに合った教育をブライダル業界もしていかなければならない。特に最近では、誰もがSNSを活用する時代である。その中で、SNSの投稿資料作成方法や、多くの方に見ていただける手段を学ぶ必要があるというお話が挙がった。その為、ブライダルに関しては、SNSのショートムービー作成や、投稿画像作成の内容を2024年度に取り入れている。また、継続して、「現場で活かせるスキル」をテーマに、新規接客ヒアリングや、見積り作成も取り入れた。後期に関しても、映像作成やマーケティングの学習を実施予定。また、各業界共通して上がった事は「人間的成長」。本学科のテーマでもある、「人に愛される人材育成」をやはり、重要視し、継続して学生育成を行っていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 学科目的である「すべての女性のキレイと幸せを実現する」に基づき、外見・内面ともに人の美を追求し続けている企業を選定し、お客様の満足度を高め、心地よいサービスを提供するために必要な知識・技術・接客力を身に付ける授業を依頼する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 業界の求める知識水準を指導できる講師を提携企業から派遣してもらう。学内での実習を基本とし、必要に応じて外部実習を取り入れる。また、企業様と連携し長期現場実習を行う。①主体性②実行力③課題発見力④資格目標⑤専門知識の観点で評価を依頼する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
サロンワーク	ビューティー業界全般のサロン計画・運営を行う。予約業務から当日の施術、施術後のアフターフォローに関する知識を習得し、卒業後即戦力としてサロンで活躍できる実践力を身に付ける。	浜松中央こども園
ブライダル実習	結婚式場やドレスサロンにて現場実習を実施。平日業務（お式準備、ご案内サポート等）と土日業務（お式本番、お客様案内）を現場で実践を通して学ぶ。	株式会社ノバレーゼ
卒業制作	2年間の学習成果として総合的な技術試験と作品発表を行い、専門課程修了の認定を受けます。	株式会社平安閣
海外授業(ハワイ)	国内だけでなく、他国の文化に触れ、自身の幅を広げると共に、今後、接客人としてお客様にサービスを提供する上で、「サービスやおもてなし」で評価の高い施設にて「何が素晴らしい接客なのか」を体感し、意識を高める。更に、これまで実践を重ねてきた「サロンワーク」との差を学び、卒業後に活かす。また、「海外リゾート」の代表的な地で、多文化のプロやサービスを知り、知識の幅を広げる	ワタベウェディンググループ株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 就業規則 第26条（教育）に定める通り、職員は常に教養と品性を高め、学校が期待する社員像を目指して研鑽に努めなければならない。そのために学校は職員に対して一般的または職務上必要な一般的な知識および情報に関する教育、専門的な知識、技能に対する教育、管理、監督者教育などの教育を行う。研修等については教務責任者が職員の職能や今後の中・長期的な学校運営を考慮して計画し、実施する。また、当初の計画にない場合でも、必要に応じて実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： メンズ接客マナー講座	連携企業等： 株式会社浜松ビジネススクール
期間： 2024年3月4日	対象： 男性教職員
内容 社会人としてのマナー講座を実施。また、「男性のビジネスファッション」の講座も含まれており、身だしなみの観点における研修も行った	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	
期間：	
内容	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 未定	連携企業等：
期間：	対象：
内容	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 未定	連携企業等：
期間：	対象：
内容	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

就職先企業関係者、職能団体関係者等により構成される学校関係者評価委員会により、年度末に実施する「自己点検・評価」を外部の目線で評価し、あわせて授業視察、学内施設見学を実施することにより、ルネサンス デザイン・美容専門学校および専門学校ルネサンス・ペット・アカデミーにおける教育の質保証・向上を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流(必要に応じて)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果を学校長に報告の上、教務統括部長が中心となりプロジェクトチームを組んで改善を図り、次回学校関係者評価委員会にて報告している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
上野弘道	公益社団法人日本動物病院協会 専務理事 ／日本動物医療センター院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界・団体委員
平井伸幸	株式会社レボル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等の委員
坂元祥彦	一般財団法人 動物看護師統一認定機構 業務執行理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界・団体委員
望月智	株式会社ジェットスタジオ 取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: https://www.rad.ac.jp/souseikai/img/report_rad2023.pdf

公表時期: 令和6年6月27日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

在校生の出身高等学校に対しては、年数回の高校訪問において在籍状況、就職活動進捗などをリアルタイムで報告・情報提供/収集し、学生指導の質的向上を図る。公式Webサイトは主に入学希望者とその保護者、就職企業等に対する情報提供、Facebookページは卒業生に向けた情報発信と、役割を分ける。学校運営状況については毎年財務状況に関する書類を公開・更新する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	理事長挨拶 法人概要 沿革(公式WEBサイト)
(2) 各学科等の教育	学科紹介(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(3) 教職員	講師・設備(公式WEBサイト)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職実績(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(5) 様々な教育活動・教育環境	授業ブログ(公式WEBサイト)
(6) 学生の生活支援	学科紹介・保護者の皆様へ(公式WEBサイト)
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(8) 学校の財務	財務計算に関する書類(公式WEBサイト)
(9) 学校評価	自己点検・評価および学校関係者評価報告書(公式WEBサイト)
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ (広報誌等の刊行物) ・ (その他(説明会での説明))

URL: <https://www.rad.ac.jp/document/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(専門課程(文化・教養関係)ブライダル・トータルビューティ科)															
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								単 位 講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○			清掃と挨拶 I	本校の行動の原点である「明るいあいさつ、人より早く」「使う前よりきれいな、トイレ清掃」や日頃の清掃・整理整頓を實踐し、社会で真に役立つ人材となることを目指します。	1	30			○	○		○		
	○			ルネサンス・メソッド	学生自身の「ジブン価値」を発見・向上(UP)させ、自立・自活した「卒業後に真に役立つ人材、自ら問題解決が出来る人材」へと成長するために、「社会人力」と「人格を高める」カリキュラム。「本校の使命」に明示された心得や良き習慣を、双方向体験学習・映像・学外見学などの多様な教育手法を用いて学びます。	1	23	○			○		○		
	○			LHR I	専門分野以外で社会人に必要な一般常識習得やコミュニケーション能力向上をLHR形式で習得します。また、学校行事やクラス内イベントの準備、スケジュールや連絡事項の確認も行います。	1	30	○			○		○		
	○			キャリア研究 I	5年後10年後の目標に向けた職業計画や、自分自身の過去を振り返っての自己分析を行います。また学んだことを活かす職種や業界の研究を行い、就職活動に活かします。	1	30	○			○		○		
	○			接遇マナー I	挨拶、所作、身だしなみを始め、対応力を基本とした、内面的・外面的な美しさが自然に表現でき、業界の見本となる姿を実践的に作り出します。また、サービス接遇実務について理解を持ち、サービスに必要な知識と技術を「サービス接遇検定2級」の取得を以て身に付けます。	1	34	○			○			○	
	○			心理学	お客様の購買心理や会社における人間関係の構築まで、円滑にコミュニケーションを図るためのノウハウや行動心理に隠された、お客様の思いを理解する事を目指します。	1	24	○			○			○	
	○			パソコンスキル	パソコンの基礎的な使い方および、プレゼンテーションにおける手法を身に付けます。また、ビジネスソフトWord、ExcelやPowerPointの使い方を学び、社会人として必要なPCスキルを身に付けます。	1	24			○	○			○	
	○			ビューティビジネス検定対策	レセプション職や技術者が技術以外のサロンワークを理解すべく、ビューティー業界の働き方やサロン運営、お客様への応対力に相当する知識を学び、ビューティ・ビジネス実務検定3級の取得を目指します。	1	22	○			○			○	
	○			パーソナルカラー I	色の種類や色の原理を始め、人の印象に関わるパーソナルカラーを学び、業界における色彩を必要とする場面での「選ぶ力」を習得します。また、色彩技能パーソナルカラー検定3級の取得を目指します。	1	11			○	○			○	
		○		【選択】アロマ	美容五感の一つである「香り」の観点で「アロマセラピー」の知識や禁忌事項、歴史などを学び、アロマセラピー検定2級の取得を目指します。これらの知識は様々な場面で美容やサービスをサポートしてくれます。	1	7			○	○			○	
		○		【選択】フォーマルウェア	フォーマルウェアの知識と着方のルールを学び、ブライダルや公式の場面での正しい着用法を習得し、フォーマルスベチャリスト検定準2級取得を目指します。	1	7			○	○			○	
	○			ブライダル I	基礎知識(定義・法律)、婚礼の形式・流れ、ブライダルプランナー業務、ブライダル業界の種類、ブライダル業種の役割を学び、ブライダル業界の大枠を学びます。また、模擬挙式の実施を通して知識理解を確実に定着させます。	1	78			○	○			○	
	○			メイク I	メイク用品の扱い、スキンケア、ベース作りを中心に、ポイントメイクの基礎、自分に似合うメイクを身に付け、シェウウエムメイクアップ技術検定とセルフメイク検定の習得を目指し、技術と知識を習得します。	1	90			○	○			○	
	○			エステ I	お互いの肌を使って、ボディマッサージとフェイシャル技術の基礎を身に付け、正しいマッサージ法や正確な手順を学びます。更に、エステーションに必要な皮膚学や技術理論の基礎知識習得を目指します。	1	90			○	○			○	
	○			ネイル I	ベーシックな爪のお手入れから、ネイル用品の扱い、爪に関する知識(構造・衛生管理・病気等)、カラーリングなど基本技術を身に付け、日本ネイリスト技能検定3級とジェルネイル検定初級の取得を目指します。	1	90			○	○			○	
	○			ヘアー I	ヘアマネキンを使用しての反復練習を行い、基本的な道具の使い方・髪の扱い方やまとめ髪の基本である夜会巻などのアップスタイル術、また自身に施す簡単アレンジ術を習得します。	1	90			○	○			○	
	○			着付け I	和装の入門である浴衣の着付けを自装・他装共に習得し、留袖、帯、振袖等、ブライダル・ビューティー業界全般で活躍するための基礎技術を習得します。	1	90			○	○			○	
	○			衣装 I	人をより良く魅せるための手法のひとつである「洋服」と「ウェディングドレス」を使って、お客様に似合うアイテムの種類や基本知識である体型・TPO・色柄・素材・シルエットの知識を用いて、コーディネートテクニック向上を目指します。	1	12			○	○			○	
	○			インナービューティ I	身体の「健康美」を目指します。美の根源となる「女性としての健康」を育み、健やかに生活するための習慣をベルヴィス®の精神をもとにキレイな姿勢、スタイル維持を身に付け、女性特有の健康維持を促します。	1	23			○	○			○	

64	○	LHR II	専門分野以外で社会人に必要な一般常識習得やコミュニケーション能力向上をLHR形式で習得します。また、学校行事やクラス内イベントの準備、スケジュールや連絡事項の確認も行います。	2	30	○	○	○												
65	○	就職実務	就職活動スケジュールの確認、連絡事項を行います。面接での自己PRの練習や履歴書作成のブラッシュアップなど自分が就職したいと考える企業へのアピール力を高める授業です。	2	35	○	○	○												
66	○	接客マナーⅡ	1年次に身に付けた基礎をより実践的且つ各分野に落とし込み、様々なお客様に対するマナーとホスピタリティを考え実行できるよう身に付けます。更に、社会や就職活動における実践マナーも習得、サービス接客検定1級の取得を目指します。	2	35	○	○	○												
67	○	サロン企画	企業の仕組みや業績拡大の構造、店舗経営、経営に関わるお金の仕組み、商品開発、サロン作りに至るまで、サロン運営に必要な知識を習得し、経営目線を学びます。	2	34	○	○	○												
68	○	POP広告Ⅱ	POP広告作成に関する基礎的な技能をもとに応用的実践的な実習を行い、POP広告検定の取得を目指し検定対策を進めます。	2	24		○	○	○											
69	○	技術実習	エステティックに関するフェイシャルおよびボディの基礎技術を理解し、実践する能力を身につけ、AJESTHE認定エステティシャンを目指す。更に、業務に従事するために必要な人間性、知識、技術の習得を目指します。	2	180		○	○	○											
70	○	理論	エステティックに関わる知識となる、概論・皮膚学・解剖生理学・生命活動・運動生理学・栄養学・化粧品学・機器学・関連法規・公衆衛生・救急法・カウンセリング学・経営学を学びます。	2	110	○	○	○												
71	○	技術理論	エステティックに関するフェイシャルおよびボディの基礎理論を理解すべく、技術を行う上での理由や効果、原理原則を知識として学び、エステティック技術をより本質をもって実践することができる。	2	34	○	○	○												
72	○	リラクゼーション	筋肉を緩め心身ともに緊張をほぐし、リラックスした状態を促す技法であるリラクゼーション。当授業では、リラクゼーションの概念と技法を知り、お客様へのアプローチ方法の幅を広げる。また、世界のリラクゼーションを学びます。	2	55		○	○	○											
73	○	カウンセリング	お客様へ商品を提供するために状況やお悩み等を確認、引き出すためのテクニックとなるカウンセリング。お客様へのヒアリング方法と情報提供方法を実践的に学び、カウンセリングテクニックの基礎を習得します。	2	24		○	○	○											
74	○	メイクⅡ	メイク技術の応用として、ポイントメイク・フルメイク・カウンセリングメイク・イメージメイクの技術を身に付け、各場面でお客様へ提案ができるよう学びます。	2	36		○	○	○											
75	○	サロンワークⅡ	エステ業界全般のサロン計画・運営を行う。予約業務から当日の施術、施術後のアフターフォローに関する知識を習得し、卒業後即戦力としてサロンで活躍できる実践力を身に付けます。	2	57		○	○	○	○										
76	○	インナービューティーⅡ	身体の「健康美」を目指します。美の根源となる「女性としての健康」を育み、健やかに生活するための習慣をベルヴィス®の精神をもとにキレイな姿勢、スタイル維持を身に付け、女性特有の健康維持を促します。	2	35		○	○	○											
77	○	食育	美容・健康に関わる、食事や栄養について基礎知識を学び、お客様へ補足提案となる知識を習得します。	2	11	○	○	○												
78	○	脱毛・フットネイル	エステ業界で強みとなるテクニックの光脱毛技術と知識、フットネイルの技術を習得し、幅広いサロン展開にも対応できるよう学びます。	2	22		○	○	○											
79	○	比較文化研究	海外授業で訪問する国を題材に、固有の歴史・文化とブライダル・美容の関係性について研究することにより、日本に暮らす一人の人間として世界に向けて何を発信すべきかを探ります。	2	11	○	○	○												
80	○	海外授業	比較文化研究と連動しながら、海外のブライダル・ビューティーや文化を実体験する授業です。事前に訪問国の文化、民族、習慣等の学びから、現地で専門分野の授業を経て帰国後のレポート提出までを単位化とします。	2	36		○	○	○											
81	○	卒業制作	2年間の学習成果として「団体制作」と「個人制作」を行い、専門課程修了の認定を受けます。	2	56		○	○	○	○										
合計				81	科目	1794				単位(単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 卒業制作合格	成績評価がすべてC以上	年間要出席日数の80%以上出席	1学年の学期区分
			2期
履修方法: 必修/選択必修科目を対面またはオンラインにて受講		1学期の授業期間	1期: 4/1-8/31 2期: 9/1-3/31

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																																
ルネサンス デザイン・美容専門学校		平成7年3月20日	中野 勲次郎	〒 430-0943 (住所) 静岡県浜松市中央区北田町130-12 (電話) 053-455-2121																																
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人爽青会		平成20年3月21日	理事長 中野 勲次郎	〒 430-0943 (住所) 静岡県浜松市中央区北田町130-12 (電話) 053-455-2121																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
衛生	専門課程(衛生関係)	美容師科	平成30(2018)年度	—	令和 1(2019)年度																															
学科の目的	美容師国家資格取得を通して、お客様と自分自身の美容ライフが豊かになるための技術・知識サービスを考えられる美容師の育成																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中途退学者等)	取得可能資格:ジェルネイル検定/ヘアケアマイスター/まつ毛エクステンション検定/美容師国家試験 中途退学者:2人(中退率3.4%)																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,985 単位時間 単位		510 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,475 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																
60人	57人	0人		0%																																
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) 28人</p> <p>■就職希望者数(D) 28人</p> <p>■就職者数(E) 28人</p> <p>■地元就職者数(F) 13人</p> <p>■就職率(E/D) 100%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 46%</p> <p>■卒業生に占める就職者の割合(E/C) 100%</p> <p>■進学者数 0人</p> <p>■その他 無</p> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 美容室</p>																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																			
当該学科のホームページURL	https://www.rad.ac.jp/hair/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A:単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,985 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>165 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,495 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>48 単位時間</td></tr> </table> <p>(B:単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,985 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	165 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,495 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	48 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,985 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	165 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																			
うち必修授業時数	1,495 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	48 単位時間																																			
総授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																			
うち必修授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 2人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人	計	2人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人																																			
計	2人																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・挨拶と掃除は社会人の初歩的かつ重要技能と位置付け、企業との連携授業においても徹底する。
- ・教育課程編成委員会によって業界ニーズや産業振興の方向性を把握・分析し、必要な知識・スキルを身に付けカリキュラムを編成する。
- ・企業訪問を実施し、業界の動向や必要とされる技術の実態を常に刷新する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会はルネサンス デザイン・美容専門学校(以下「学校」という)の教育課程の編成に対し、年2回開催される教育課程編成委員会にて意見を発し、また教育課程の運営を評価する権限を有する。教育課程編成委員会での討議内容は議事録として残し、学科長を中心に次年度学科運営計画を策定。学校長の承認を経て、講師会にて常勤・非常勤講師に共有する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
中野 勤次郎	ルネサンス デザイン・美容専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
中野 良太	学校法人爽青会 副理事長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
藤原 研一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 副校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
竹田 侑里	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
安藤 創一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
阿部 恵美	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
落合 拓弥	ルネサンス デザイン・美容専門学校 教務部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
前田 健一	ルネサンス デザイン・美容専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
米山 ちほ	ルネサンス デザイン・美容専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	
樫山 昇平	株式会社岩井文男美容室 人事部部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
田中 光	CMA株式会社 サロンチーフ	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
笹竹 祐太	美容室apia 代表	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
杉浦 里奈	feel スタイリスト(卒業生)	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月28日 10:00～12:00

第2回 令和6年3月14日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・業界から求められる(喜ばれる)カリキュラムとは

技術において習得しておいて欲しい技術はシャンプー技術である。サロンのやり方があるので、入社してから1からにはなるが、手に慣れること、頭の丸みになれることが重要。1年次に行くと、手技を忘れていた事もあるため、入社前にシャンプー授業を組み込んでいくことが必要。技術面以外では、年代に応じたコミュニケーション力と「挨拶・笑顔」や基本的な接客言葉使いなどの社会人スキルを高めるための指導をしていくことも重要である。

→実際に第一線で活躍されている皆様からのご意見をお伺いし、業界からリアルに求められているスキルや教養を身に付けさせ、「即戦力」につなげさせる

・新入社員への対応と指導の方向性・主体的な人材育成について

床掃除や掃除などはアシスタントの仕事と決めつけるとやらされている感が出てしまう。スタッフ全員が行えば、先輩が後輩の仕事をとることになるため、自分の仕事がなくなることを理解させ指導している。新人はSNSで知識は膨大にもっているため、出来ると勝手に勘違いしていることがおおい(見た目で出来ると勘違いしている)実際にやらせて現実を知らせる。目標が高いが、それまでの過程が計画できていない、そのために目標にたどり着くまでにやるべきこと、あたりまえのことを1つ1つ説明しているなどのご意見を頂いた。

→現状、美容業界においても新卒者への指導や対応は非常に丁寧に行われている。実際に現場で実施されている指導方法や対応を理解し、養成施設における学生指導の参考とする

・各種大会やコンテストに対する意義・捉え方・有効性

練習する癖をつけるための1つのツールである。技術力を高めるには練習数である。練習癖をつけることで、結果的に売りに繋がると繋がるので、大会参加することは良い。また、勝ちも負けも良い経験になる。普通に営業していると、クリエイティブ性がなくなってくる(サロンスタイルに強くなる)学生時代の方が、創造力があるため、学生時代から感性を磨くことが重要。といった参加をすることで得られる経験、練習をする癖付けに繋がると前向きな意見を多く頂いた。

→学生の挑戦心、好奇心を養い、高めさせていくためにもコンテストや大会にチャレンジさせていくことは重要である。強制的に参加はさせないが、大会へ参加出来る環境を今後も作り、自主性を高めさせていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 学科目的である「「カウンセリング」・「接遇」・「技術」でお客様に感動を与える」に基づき、美容師国家試験100%100点合格とサロンワークで新入社員が必要な知識・技術を身に付ける授業を依頼する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 県内・県外の美容室から実際の現場の声や最新の情報、業界のニーズを学び知識や実践的授業を実施し、直接改善点と成果評価を頂き、技術、実践力を養う。更に他業種の分野の知識を学ぶことで、幅広い教養を身に付ける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
選択必修Ⅱ (ビューティーエデュケーション)	美容に関することはもちろん、様々な分野の経験を通して知見を広げます。また、接客の幅を広げ、お客様対応に必要な感性と教養を向上させます。	ピラス株式会社 浜松医療学院
選択必修Ⅱ (ヘアケア)	美容師にとって最も身近な存在である「ヘア」に関する知識をより深く学びます。また、昨今のヘアケアに対するニーズの高まりに対応できるように、現在、現場で使用されている技術を習得します。	株式会社RUMI
選択必修Ⅱ (ブライダルヘアメイク)	美容師がブライダル業界で必要とされる、ブライダルヘアメイクの技術を学び、新郎新婦様・ご親族様用のヘアメイクやお色直しができるようにスタイルのイメージと技術を習得します。	ハクビ京都きもの学院
選択必修Ⅰ (City & Guilds)	モデルを使った実践的な授業を行い、現場で「即戦力」となれる接客力や技術力、対応力を身に付けます。また、国際美容技能試験に合格することで国際美容技能認定証が発行されます。	株式会社セイファート エグザミナーサロン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 就業規則 第26条(教育)に定める通り、職員は常に教養と品性を高め、学校が期待する社員像を目指して研鑽に努めなければならない。そのために学校は職員に対して一般的または職務上必要な一般的な知識および情報に関する教育、専門的な知識、技能に対する教育、管理、監督者教育などの教育を行う。研修等については教務責任者が職員の職能や今後の中・長期的な学校運営を考慮して計画し、実施する。また、当初の計画にない場合でも、必要に応じて実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	教員研修会	連携企業等:	東海地区理容美容学校協議会
期間:	2023年10月13日・14日	対象:	常勤教職員
内容:	「輝いて生き抜くために」「ウィッグの秘密」「最低限知らなければならない社会保険」「学校内におけるセクハラ・パワハラ」をテーマに美容業界に関係が深い問題への対策、解決策を学び、教職員の視野を広げる		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	東海地区「即戦力養成講習会」	連携企業等:	東海地区理容美容学校協議会
期間:	2023年8月8日	対象:	常勤教職員
内容:	「頭部のセット技術」「ヘッドマッサージ技術」の習得。業界より即戦力となる卒業生を求められていることから、現場のニーズに即した技術の習得及び向上の支援をするため、養成施設の教員を対象とした技術講習会		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	教員研修会	連携企業等:	東海地区理容美容学校協議会
期間:	2024年11月22日	対象:	常勤教職員
内容:	美容師教員の知識やトレンド又は、指導における視野の幅を広げる事を目的とし、東海4県の合同研修会		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	美容師実技試験委員養成研修会	連携企業等:	全国専修学校各種学校総連合会
期間:	2024年10月	対象:	令和6年度美容師実技試験委員新規委嘱予定者
内容:	美容師実技試験において、審査業務を担う美容師実技試験委員の新規委嘱予定者に対し、美容師実技試験委員として必要な知識を習得させることを目的とする。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

就職先企業関係者、職能団体関係者等により構成される学校関係者評価委員会により、年度末に実施する「自己点検・評価」を外部の目線で評価し、あわせて授業視察、学内施設見学を実施することにより、ルネサンス デザイン・美容専門学校および専門学校ルネサンス・ペット・アカデミーにおける教育の質保証・向上を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流(必要に応じて)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果を学校長に報告の上、教務統括部長が中心となりプロジェクトチームを組んで改善を図り、次回学校関係者評価委員会にて報告している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
上野弘道	公益社団法人日本動物病院協会 専務理事 日本動物医療センター院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界・団体委員
平井伸幸	株式会社レボル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等の委員
坂元祥彦	一般財団法人 動物看護師統一認定機構 業務執行理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界・団体委員
望月智	株式会社ジェットスタジオ 取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: https://www.rad.ac.jp/souseikai/img/report_rad2023.pdf

公表時期: 令和6年6月27日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

在校生の出身高等学校に対しては、年数回の高校訪問において在籍状況、就職活動進捗などをリアルタイムで報告・情報提供/収集し、学生指導の質的向上を図る。公式Webサイトは主に入学希望者とその保護者、就職企業等に対する情報提供、Facebookページは卒業生に向けた情報発信と、役割を分ける。学校運営状況については毎年財務状況に関する書類を公開・更新する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	理事長挨拶 法人概要 沿革(公式WEBサイト)
(2) 各学科等の教育	学科紹介(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(3) 教職員	講師・設備(公式WEBサイト)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職実績(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(5) 様々な教育活動・教育環境	授業ブログ(公式WEBサイト)
(6) 学生の生活支援	学科紹介・保護者の皆様へ(公式WEBサイト)
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項(公式WEBサイト・学校案内パンフレット)
(8) 学校の財務	財務計算に関する書類(公式WEBサイト)
(9) 学校評価	自己点検・評価および学校関係者評価報告書(公式WEBサイト)
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(説明会での説明)

URL: <https://www.rad.ac.jp/document/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

(専門課程(衛生関係)美容師科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	講義	演習	実験・実習・実技	場所			教員		企業等との連携
											校内	校外	専任	兼任		
	○			美容実習Ⅰ	美容師国家試験の実技課題となる「カット」「ワインディング」「オールウェーブ」の3課題を学びます。基礎となる理論を十分に理解した上で、用具の使い方・構造・時間を測りながらの手先の動きを徹底して習得します。	1	375			○	○		○	○		
	○			美容技術理論Ⅰ	美容用具の種類と特徴、正しい取扱いの方法、美容技術を行う際の姿勢、ヘアシャンプーなどの頭部施術、美容師として必要な基本的な技術の理論を学びます。	1	98	○			○		○	○		
	○			保健Ⅰ	美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚および毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得します。また、皮膚疾患の種類や原因、症状について学び美容の施術との関連を学びます。	1	48	○			○			○		
	○			衛生管理Ⅰ	感染症、環境衛生、衛生管理技術などを学び、美容における衛生措置の重要性について理解します。また、美容器具などの消毒法の適正な実施方法を身に付けます。	1	48	○			○			○		
	○			香粧品化学Ⅰ	美容に深く関わっている香粧品の性状や使い分け、安全性などについて学び、公衆衛生に資する美容師として必要な知識を身に付けます。	1	32	○			○			○		
	○			文化論Ⅰ	美容文化史・美容デザイン・服飾などを学び、豊かな感性と美的感覚を身に付け、優れた表現力と鑑賞力を養います。	1	32	○			○			○		
	○			運営管理Ⅰ	経営者の視点から考えた時、従業員として何が求められているかを理解します。また、労務管理の役割や社会保険など社会の仕組みも学びます。	1	11	○			○			○		
		○		選択必修Ⅰ (シャンプー/セット)	シャンプーの目的や理論を十分に理解し、美容技術の基礎であるシャンプーの技術・知識を身に付けます。また、基本的なブロースタイリング技術も習得します。/ヘアカラーの種類、特徴と注意点を十分に理解し、白髪染やファッションカラーなどの基本的な技術と染毛のメカニズムなどの基本的な知識を身に付けます。	1	96			○	○				○	
		○		選択必修Ⅰ (インターンシップ)	将来の職業に関連した就業体験を行う活動です。授業で得た知識を企業実習の場で活用し、その後の進路のビジョン、働く意義、社会に出る前の自らの課題が就業体験をする事により明確になります。	1	48				○		○	○	○	
		○		選択必修Ⅰ (LHR・行事・特別授業等)	美容師になるために必要な、ビジネス知識やキャリアアップの構築や学校行事やクラス内イベントの準備、スケジュールや連絡事項の確認も行います。また、特別ゲストをお招きしての技術向上や各種行事によるチームワーク構築を促す時間です。	1	135	○			○			○		
		○		選択必修Ⅰ (ルネサンス・メソッド)	学生自身の「ジブン価値」を発見・向上(UP)させ、自立・自活した「卒業後に真に役立つ人材、自ら問題解決が出来る人材」へと成長するために、「社会人力」と「人格を高める」カリキュラム。「本校の使命」に明示された心得や良き習慣を、双方向体験学習・映像・学外見学などの多様な教育手法を用いて学びます。	1	23	○			○			○		
		○		選択必修Ⅰ (メイク)	メイク用品の扱い、スキンケア、ベース作りを中心に、ポイントメイクの基礎、自分に似合うメイクを身に付け、シュウウエムラメイクアップ技術検定の習得を目指し、技術と知識を習得します。	1	36				○	○			○	
		○		選択必修Ⅰ (City & Guilds)	モデルを使った実践的な授業を行い、現場で「即戦力」となる接客力や技術力、対応力を身に付けます。また、国際美容技能試験に合格することで国際美容技能認定証が発行されます。	1	60				○	○			○	
		○		選択必修Ⅰ (ネイル)	ベーシックな爪のお手入れから、ネイル用品の扱い、爪に関する知識(構造・衛生管理・病気等)、塗り方など基本技術を身に付け、日本ネイリスト技能検定3級検定取得を目指します。	1	51				○	○			○	
		○		選択必修Ⅰ (パーソナルカラー)	色の種類や色の原理を始め、人の肌に合うパーソナルカラーを学び、業界における色彩を必要とする場面での「選ぶ力」を習得します。また、色彩技能パーソナルカラー検定取得を目指します。	1	18				○	○			○	
	○			美容実習Ⅱ	公衆衛生向上の意識や美容器具の消毒についての重要性を十分に認識させ、1年次に習得した基本テクニックの反復練習を行い、技術力を的確に蓄積していきます。段階的に時間を計りながら、スピードや技術の正確性を習得し、国家試験合格のための技術力を高めます。	2	549				○	○		○	○	
	○			美容技術理論Ⅱ	美容師国家試験(筆記)出題科目 美容に関する基礎技術の知識をもとに、頭部技術・特殊技術・和装技術など、美容実習に基づく美容業に必要な知識を身に付け、国家試験合格を目指します。	2	75	○				○			○	
	○			保健Ⅱ	美容師国家試験(筆記)出題科目。美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚および毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得します。また、皮膚疾患の種類や原因、症状について学び美容の施術との関連を学び、国家試験合格を目指します。	2	48	○				○			○	

19	○		衛生管理Ⅱ	美容師国家試験(筆記)出題科目 感染症、環境衛生、衛生管理技術などを学び、美容における衛生措置の重要性について理解します。また、美容器具などの消毒法の適正な実施方法を身に付け国家試験合格を目指します。	2	48	○		○	○													
20	○		香粧品化学Ⅱ	美容師国家試験(筆記)出題科目 美容に深く関わっている香粧品の性状や使い分け、安全性などについて学び、公衆衛生に資する美容師として必要な知識を身に付けます。また、美容師国家試験筆記対策も行い、国家試験合格を目指します。	2	32	○		○	○													
21	○		運営管理	美容師国家試験(筆記)出題科目。美容業において適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚し、お客様対応の基本を学びます。また、経営管理手法を学び、美容所の経営に役立つ知識を身に付けます。また、美容師国家試験筆記対策も行い国家試験合格を目指します。	2	27	○		○	○													
22	○		関係法規・制度Ⅱ	美容師国家試験(筆記)出題科目 美容の業務に関する規定内容を正確に理解し、公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について自覚を促します。また、美容師国家試験筆記対策も行い国家試験合格を目指します。	2	40	○		○	○													
23	○		文化論Ⅱ	美容師国家試験(筆記)出題科目 美容文化史・美容デザイン・服飾などを学び、豊かな感性と美的感覚を身に付け、優れた表現力と鑑賞力を養います。また、美容師国家試験(筆記)合格に向け、対策内容を実施し、国家試験合格を目指します。	2	32	○		○	○													
24		○	選択必修Ⅱ (ビューティーエデュケーション)	お客様の悩みや要望に沿って、イメージメイク技術とカウンセリングメイクができるよう、技術と応用力を学びます。メイクアップ技術検定1級取得を目指します。	2	36			○	○										○	○		
25		○	選択必修Ⅱ (ブライダルヘアメイク)	美容師技術の1つである「まつ毛エクステンション」の技術と知識を身に付け、美容師技術の幅を広げます。また、まつ毛エクステの検定取得を目指します。	2	36			○	○											○	○	
26		○	選択必修Ⅱ (ネイル2級)	美容師におけるサロン技術の基本的仕上がりや国家試験技術がどのように応用技術へと移り変わるかを理解します。そして、就職後にスタイリスト技術を理解した上で業務に臨むことができるようフォローアップしていきます。	2	36			○	○												○	
27		○	選択必修Ⅱ (デッサン)	美容業界に必要なジェルネイル技術を習得し、ジェルネイル検定(初級)取得を目指します。また、ジェルネイルにおける基本的なデザイン手法を学び、デザインの幅を広げます。	2	36			○	○												○	
28		○	選択必修Ⅱ (メイク1級)	美容師としてのアーティスティックな創造力を高めるべく、普段スタイルではないクリエイティブな作品を作り上げる技術と手法を身に付けます。	2	33			○	○												○	
29		○	選択必修Ⅱ (ヘアケア)	美容師がブライダル業界で必要とされる、ブライダルヘアメイクの技術を学び、新郎新婦様・ご親族様用のヘアメイクやお色直しができるようスタイルのイメージと技術を習得します。	2	33			○	○												○	○
30		○	選択必修Ⅱ (サロンワーク)	メイク技術の応用として、舞台メイク・トレンドメイク・アートメイクなどの幅広いメイク技法を身に付け、各場面のお客様へ提案ができるよう学びます。	2	33			○	○													○
31		○	選択必修Ⅱ (行事・研特別授業等)	美容師になるために必要な、ビジネス知識やキャリアビジョンの構築と特別ゲストをお招きしての技術向上や各種行事によるチームワーク構築を促す時間です。また、就職活動での情報収集を行い、美容師としての「これから」をフォローアップしていきます。	2	66	○		○	○													
合計					31	科目	1985													単位(単位時間)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 卒業制作合格 成績評価がすべてC以上 年間要出席日数の80%以上出席		1学年の学期区分	2期
履修方法: 必修/選択必修科目を対面またはオンラインにて受講		1学期の授業期間	1期:4/1-8/31 2期:9/1-3/31

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。